

はしがき

看護師をめざす学生の皆さんが、国家試験科目である「関係法規」をわかりやすく学べて、さらにその法的知識が卒業後の実務でも役に立つ教科書をつくりたい——それが本書のコンセプトです。

看護技術・医学知識中心の看護師養成教育のなかで、法律関連の授業は少なく、学生の皆さんは苦手意識を持ちやすいようです。しかし、病院を含めて私たちの生活は、法律を守り、法律に守られることで成り立っています。看護師の資格などを定めた保健師助産師看護師法は、国家試験の必修問題に指定されています。急速に変わりつつある医療現場では、人権感覚や医療従事者の法的責任への理解も重要になっています。

そのような問題意識のもと、看護系大学で実際に「関係法規」を担当している教員で編集された本書は、類書とは異なる3つの大きな特徴もっています。

- ①国家試験合格に直結するよう、出題基準と過去問の出題傾向から、ポイントを絞ったメリハリある内容としました。別科目である場合が多いですが、医療・介護・福祉の要点も復習的に含めました。
- ②初めて法律に触れる学生をイメージして、序章に「法学の基礎」を置き、親しみやすくしました。また、労働法や個人情報保護法など看護師が現場で活躍するうえで重要になる法律も解説しました。
- ③インフォームド・コンセントや医療安全などの視点をふまえ、患者の人権や看護師の法的責任への理解を深めるとともに、看護師として知っておくべき重要な事件も取り上げました(終章)。

国家試験合格には、過去問を解くことが最も有効な方法です。法律文化社のホームページ (<http://hou-bun.com/>) の「教科書関連情報」に、本文に掲示した過去問とその解答・解説をのせました。

また、巻末に、臨床経験の豊富な現役医師のエッセイも挿入しました。医師とチームを組む看護師の仕事のあり方や、医療現場で法律がどう関係するかなどのヒントを、臨場感たっぷりに提供してくれるでしょう。

国家試験合格は、ゴールではなく、看護師としてのキャリアの出発点です。本書が、単に国家試験対策にとどまらず、医療現場で直面する諸課題について法的に理解し、看護のプロをめざす人々の更なる研鑽につながるきっかけとなれば望外の喜びです。

最後に、本書の出版にあたっては、法律文化社編集部の小西英央氏には、企画の段階から編集、完成に至るまで終始変わらぬご尽力をいただき、大変お世話になりました。ここに改めて御礼を申し上げます。

2012年11月

編者を代表して

森田 慎二郎